

CB650R カラーリング

新世代CBシリーズでは、カラーリングに対しても車両の持つ質感の高さを表現する手段と位置づけ、シリーズを通して込めた想いをより印象深く伝えることを目指しました。

●新世代の「赤」

Hondaは1948年に創業しました。Hondaの二輪車は、それ以来380種を超える「赤」で彩られてきました。現在「赤」は、二輪車はもとより、Hondaそのものを象徴する色となっています。そしてどの「赤」も、Hondaの歴史が常にスポーツ、パッション、チャレンジによって紡がれて来たことを物語っています。2018年、Honda創業70周年を迎えたことを機に、この歴史が世界中のお客様によって作り上げていただいたものであることを改めて振り返るとともに、それをさらに未来につなげて行く決意を込めて新世代の「赤」を、CB1000RをスタートとしてFunカテゴリーモーターサイクルに適用しています。

●キャンディークロモスフィアレッド

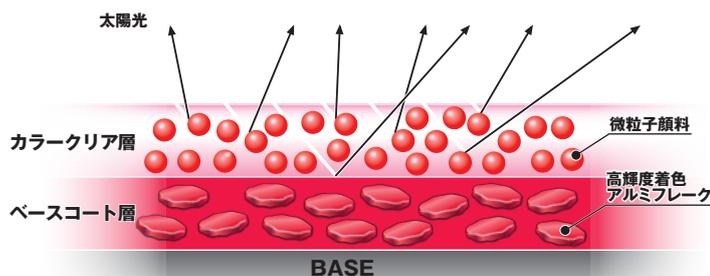
CHROMOSPHEREは太陽の「彩層」「色圏」の意。

Hondaの二輪車、その情熱をいつの時代にも彩ってきた「赤」の象徴となり得ることを願い名付けました。

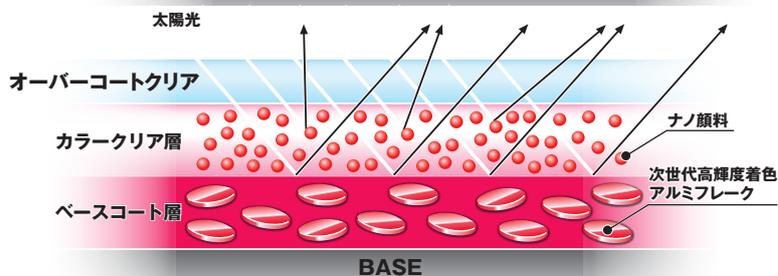
ベースコートにカラークリアを塗り重ねた2層構造のキャンディー塗装仕様とし、ベースコートには従来のアルミフレークよりさらに薄くなめらかな表面で反射率を上げた“次世代高輝度着色アルミフレーク”を採用することで、より強くシャープな輝きを実現。また、カラークリアには“ナノ顔料”を採用することで、ベースコートに到達する光の透過率を格段に向上させました。これらにより従来のキャンディー塗装では成し得なかった、稜線を走る光線のようなハイライトと深い陰影が織りなす表情変化によりタンクの立体感をより雄弁に演出します。

■キャンディー塗装仕様 断面比較イメージ図

従来のキャンディー塗装仕様



CB650R キャンディー塗装仕様 CANDY CHROMOSPHERE RED



ベースコートには、従来よりさらに薄くなめらかな表面で反射率を上げた“次世代高輝度着色アルミフレーク”を採用し、強くシャープな輝きを獲得。カラークリアには、従来よりさらに細かい“ナノ顔料”を採用することで、ベースコートに達する光の透過率を格段に向上。高彩度の透明感と、見る角度で色味が大きく変わる性質により豊かな立体感を実現。